

2023年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	194510198	事業の開始年月日	平成25年2月1日
		指定年月日	平成25年2月1日
法人名	社会福祉法人 ハートフル記念会		
事業所名	グループホーム さいわいの樹		
所在地	(212-0054) 神奈川県川崎市幸区小倉5-10-24		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和6年2月10日	評価結果 市町村受理日	令和6年5月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の施設や町内会の方々と連携したり、近隣の施設の方と連携して色々な事を相談して行事等を行っている。
 家族の方とも気兼ねなく相談出来る事を職員一同心掛けている。
 家庭的な雰囲気を取り入れ誰でも安心して頂ける様な環境作り等に心掛けている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年3月15日	評価機関 評価決定日	令和6年5月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR「川崎」駅西口よりバスに乗り、バス停「末吉橋」徒歩9分の所に立地しています。住宅街の中に位置する施設の近隣には、神社や公園、保育園、小学校、スーパーマーケットなど地域資源に恵まれた環境となっています。

<優れている点>

人材育成に注力し、職員一人ひとりが自主的にチームワーク良く支援に努めています。毎月の行事を職員は順番に担当し、得意分野を発揮しながら利用者が楽しめる企画を予算も踏まえながら立案し実行しています。コロナ禍や、利用者の重度化にともない初詣を自粛した際にも、鳥居や、おみくじ、利用者の願いを書いた絵馬を手作りし、利用者は祈願しています。担当者が自ら「作成にあたって手伝ってくれる人」を申し送りの中で募集しています。職員の個性を発揮した多彩なアイデアを管理者は否定せず受け入れ、職員の自主性を伸ばしています。また、多くの職員が取得している介護福祉士の資格も、未取得職員には「取得はどこに行っても何かの役に立つ」と職員の将来も視野に入れ推奨しています。また更に、質の高い支援や、虐待防止にもつながると考え、認知症介護についてより深く体系的に学ぶことができる認知症介護実践者研修の受講も職員に勧めしています。

<工夫点>

コロナ禍で地域との交流は自粛していますが、繋がりが継続できるように工夫しています。地域包括支援センター発信の介護保険事業が集まるSNSグループに参加しています。地域包括支援センターや他施設の情報を得る機会となっています。地域密着を大切に、「今できること」を行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム さいわいの樹
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域の連携を取りながら他施設との交流を踏まえて事業所としての生き生きとした家庭的な暮らしを目指し職員全員がその理念を共有実践に務めつなげていく	開設以来の理念となっています。次年度から管理者が交代をする機会に、改めて新しい理念を作成する事を検討しています。	地域密着の目的に沿った、新しい理念を職員全員で作り上げ、日々の支援の立ち返るものとする事を期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事ごとに参加したり散歩等を通し近隣の方々と自然に挨拶が出来、交流が出来る様、職員、利用者が日常的に交流を心掛けている。	地域行事の朝市では野菜や服などの出店を見に利用者と職員が出かけています。近隣の小倉神社の由来のある「きゅうり祭り」にも参加し奉納のきゅうりを貰いに参加しています。地域は利用者のふるさつであるとの思いで交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、地区民生委員、地域包括、地域の施設との交流 ご家族様への活動報告を行っている。認知症の人の理解や支援も理解して頂ける様にいかしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年3回ペースで開催、役所、民生委員、ご家族を交えて意見交換を行い、サービスの向上に活かしているが、コロナ禍の蔓延防止対応の為今年度は行えない状況です。	コロナ5類に移行後の対面開催の実施には至っておりません。今後は近隣の小規模多機能型居宅介護施設と合流の開催や、他施設の会議への参加を検討しています。	省令に基き、運営推進会議の開催を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議は延期の状況ですが、市町村担当との連携に常に心掛けし、積極的に取り組んでいる。	幸区地域包括支援センターで発信の小倉地域や西加瀬地域の介護保険事業所のSNSグループの中で情報を得ています。コロナ禍前はそれぞれの事業所の行事への参加がありましたが現在は自粛しています。再開後の参加を検討中です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束の手引き」身体拘束の行為を職員が理解認識している。玄関の鍵等は安全上施錠しているが外出する際には一緒に同行している。	年4回、利用者の不穏症状が強く、支援困難な事例を挙げて話し合いをしています。利用者同士の声掛けにより症状が強くなる人への対応に、静かに落ち着ける少し離れた場所にリビングの配席を移動するなど、職員で意見を出し合い実施しています。管理者が身体拘束の研修の講師を担い、身体拘束の弊害について学んでいます。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員の理解と知識の共有を図り虐待防止に努めている。新しい職員にも周知徹底する事に努める	職員が「自分本位のケアになると、利用者の認知症状にイライラし虐待につながる」と考えています。せかせかと急いだ介護を行わず、ゆったり心に余裕を持って利用者に向き合うためにも、認知症を理解し、多くの症状について学ぶことが大切としています。職員には認知症実践者研修を受講して欲しいと考えています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している。	利用者の中には、後見人の方が何人かいるので、職員全員に周知しなくてはいけない。その都度活用できる様に個々に活かし合い支援援助している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際には、事前に契約内容等を説明し、ご家族、ご利用者様に納得して頂いた上で入居して頂ける様心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を通して意見交換を行っているが、今はコロナかなので出来ていない	感染症に留意し、以前まで意見を直接聞く機会だった家族会を中止しています。毎月家族へ手書きの手紙を発送しています。なかなか面会に来れない家族にも利用者の身体状況の様子や変化の詳細を伝えて安心につなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期に会議を行い各自の意見を述べて対策改善に努めている。出来ない時は申し送りノートを利用して職員が把握できるようにしている。	職員が自主的に提案をする仕組みができています。毎月担当者が企画する行事も予算内で収まり、利用者も職員も一緒に楽しめるアイデアを活発にあげています。転居予定のある利用者とプリクラが撮りたいとの意見も感染症に留意して様子を見ながら実施できるように見守っています。	職員全体で課題を振り返り話し合える場を作ることを期待します。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	休憩時間等も個々に状況を把握し声かけ合い休憩をとっている。働きやすい職場環境整備に努めている。	年1回の人事考課では職員は年度初めに掲げた目標の自己評価を行っています。管理者から達成度についての評価を伝え、職員の振り返りの機会となっています。小さな子どもがいる職員の急な休みにもホーム全体で支えています。休憩室にはソファを置きゆっくり休める環境を整えています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質を把握しその人に合った力量に合わせたケアを支援して行く。一年に一回職員全員に人事考課を行い向上心を持ってもらえる様に努めている。	複数の職員が介護福祉士の資格を取得しています。取得していない職員にも、視野を広く持ち仕事をして欲しい、「取得は色々な経験から介護の幅が広がる」と職員に勧めています。今後は機会があれば、他施設の取り組みも勉強できればと考えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣の施設と交流、研修等 ネットワークを持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居して間もない時は施設に慣れるまで不安なので、細かく観察してご本人に合った対応に心掛け良い関係作りに努め支援して行く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前見学時に生活状態、既往歴等細かく聞き取り、要望を明確にした上でこちらでの生活が不安なく過ごして頂ける様支援して行く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族の思いを聴き確認して本人にとってより良い方法を一緒に考え援助し職員全員が把握して同じサービスが出来る様に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人と職員と一緒に出来る事、職員が見守りながら出来る事を活かし生活の楽しみを増やし共に寄り添い出来る関係を築ける様支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月ご家族に報告書を送り生活の様子、健康状態、日常の事等を伝えて家族の方との絆を大切にご本人も安心して頂ける様支援して行く。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、知人、友人が何時でも面会に来られる様に環境を作る支援に努めている。	近隣からの入居の利用者が多く、施設近隣が馴染みの場となっています。感染症に留意しながら馴染みの神社の朝市や祭りなどの行事に参加できるようにしています。友人や家族からかかってくる電話の取り次ぎもしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の性格やレベル等把握し一人一人が孤立せず、皆で楽しく過ごせる関係性を作る努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了となってもご家族様からの連絡があれば必要に応じて対応し支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の今までの生活していた思い等なるべく維持し、今後の希望等を聴き職員と、ご本人に添いながら検討していける様に努めている。	施設で生活する理由を本人にきちんと伝えてから入居するよう、家族にお願いしています。生活する環境が大きく変わることによって不安になる気持ちを少しでも減らすようにしています。日々の生活の中から、希望や思いの把握に努め、自宅での生活の延長として、安心して暮らせるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご家族から情報を聞き取ったり、ご本人の話の中で日々の生活出来るサービスを把握し安心して暮らせる様支援に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとり身体の状況を把握し出来る事、出来ない事、ADL低下させない様支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意見を聴き、その都度反映している。体調やADL等に応じ職員と話し合い計画を作成している。	入居者の体調に留意しながら、どうしたら楽しい一日が過ごせるかを考え、プランを作成しています。毎日の生活で入居者の変化や気付いた事は何でも「申し送りノート」に記入し、職員みんなで意見交換、モニタリングを行い見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の暮らしの様子、個人記録等健康チェック等を見て日々体調管理を職員間で共有し介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	地域包括支援センターや他施設内の交流支援状況を図りながら日々の生活を円滑に支援できるサービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域で慣れ親しんだ所で穏やかに過ごせる支援、町内会ボランティアの方にも協力して頂き安心安全に過ごせる支援をしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人ご家族の希望を聞き受診通院をかかりつけ医師に連携を取りながら支援している。	かかりつけ医は自由に選択できるように伝えていきます。毎月2回の内科医による訪問診療を受け、24時間体制でサポートしています。毎月1回の認知症専門医による訪問診療は、家族と相談の上受診しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の生活の中でのケアで変化に気付いた時に看護師、医師に伝え指示を適切な受診や看護が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は医療機関に利用者の情報提供を速やかに伝え、また退院時には前もって医療機関側から状態情報を伝えて頂き施設に戻ってからも無理なく行える関係づくりを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期について家族の方医療機関の方を交えて早めに話し合いを行い説明をし十分理解を得る様に支援している。	入居者の重度化や終末期について、事業所でできる事を説明しています。食べ物の飲み込みが上手く出来なくなり、また持病の悪化による医療の必要性など状態に変化があった場合は、家族と相談の上、病院や特別養護老人ホームへの転院を提案しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や危険な時に備えて職員全員で対応が出来る様にマニュアル作りをし、電話の近くに手順書を貼って常に身に着ける様にしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防災訓練を行っている。安全確保に努めている。地域住民の協力、町内会を通して協力体制、他施設の方とも連携を築けている。	消防署の指導で、日中と夜間を想定した消防訓練を行い、町内会長・大家など地域住民と一緒に避難訓練をしています。災害時には、交流のある近隣の介護施設との協力体制を築いています。災害に備え、備蓄品はリストを作り保管しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報をはじめ漏らさない、意思を尊重し無理の無い支援をする。コミュニケーションを図りながら信頼関係を築ける様支援している。	トイレ介助は、入居者が安全に座ったことを確認してから、職員はドアを閉めて外で待ち、羞恥心に配慮しています。入居者との会話は、家にいる時のようにあえて親しみのある呼び名で呼んだり、全体をみて違和感のないような言葉かけをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の日常生活の中で安心して生活が送れる様に本人の希望など自ら決定出来る様な環境作りを心掛けて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人個人の意見を尊重し一人一人のペースに合った生活が送れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の希望により自分らしい整容が出来る様に支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	配食によるメニュー、季節感のあるメニュー、カロリー他、近隣の方からの頂いた野菜果物などを活かし利用者と職員が準備等しながら楽しめる支援をしている。	毎月1回食事を楽しむ企画を考えています。ファストフードの宅配、利用者に好評な食べやすいネタを選んだ寿司の出前もしています。ミキサー食は、みんなと同じ料理をミキサーにかけ、盛り付けにもこだわり食欲増進につなげています。残存能力を活かし、自身で食べてもらい、皿の位置を変えるなどの介助を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	宅配食材による カロリー、栄養管理された献立、栄養バランス、水分量など利用者様のその日の健康状態に応じて食事が出来る支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアしその他に週1回のペースで歯科往診にて口腔内の清潔保持が出来る。口腔内の汚れが誤嚥性にもつながるのでケアを強化している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者一人一人の排泄パターンを把握し声掛けし排泄誘導し習慣を持って頂ける支援して行く。個人別の排泄チェック表をスタッフが共有し健康チェックも支援している。	一人ひとりの排泄間隔を把握して声掛けを行うことで自立排泄につなげています。入院中は杖歩行のためオムツを使用していた利用者が、退院後にトイレに近い席に移動し、自由にトイレに行くことで、オムツからリハビリパンツに改善した事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者様の個々の排便状況のチェック表を元に把握し便秘にならない様に運動、水分量提供や主治医、ご家族の方々とも相談しながら改善出来る様に支援を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者様の体調やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂く。季節毎に『ゆず湯』『菖蒲湯』など楽しんで頂ける様支援している。	浴槽の縁に手すりを取り付けることで、浴槽の出入りが安全に出来るようにしています。車いすの入居者のシャワー浴には足浴も併せることで体を温める工夫をしています。入浴の前日に、入居者にどの洋服を着るか自分で選んでもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動の中で無理の無いようにレクリエーションや散歩などを支援したり個人の意見を受け体調等に応じ休息をしたり、安心して眠れるように支援を行っている。今はコロナ禍なので散歩は様子観ながら行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が利用者様の服用を把握出来る様にケースに整理し体調や症状の変化にも気を付けて確認しながら提供するよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の日々の暮らしで出来る事を活かし生活に張りのある支援を心掛け楽しみも増えるように気分転換などにも支援をしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望に添った外出支援 外出できない場合は玄関前の外やベランダで外の風を感じて頂ける様支援している。	事業所の近くの公園に出かけ、日にちを変えて、個別に日向ぼっこをしています。7月は地域のキュウリ祭り、8月は神社の夏祭りや毎月開催する朝市など、地域で行われる色々な馴染みのある行事に、職員と一緒に参加して楽しく暮らせるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は基本的には事務所で預かりし管理している。ご本人の希望にてお金を持ってスタッフと供に買い物等し使える様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの電話や手紙等出来るような環境を作って支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が一番長く居る場所を居心地良く安心して居られる様に工夫している。フロアでの時間を大切に過ごせる様にしている。	1階の日当たりの良いリビングから繋がるウッドデッキでは、入居者が外気浴をしたり、庭の夏みかんやブドウの収穫の様子を見守っています。フロアでゆっくり新聞を読んだり、職員と一緒にウエスを作るなど、居心地の良い空間になるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご本人のお部屋は勿論の事ですが、フロアも皆様と一緒に過ごせる様な居場所を作る工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居にあたってなるべくご本人が暮らしていたままの状況、慣れ親しんだ物を持参し本人が安心して暮らして行ける様に支援している。	ホームの生活でも気持ちが落ち着いてもらうように、自宅で使用していた馴染みの物を自由に持参してもらっています。抱き心地の良いぬいぐるみや、使い慣れたタンスなどを持ち込んでいる人もいます。日々の清掃や、日当たりのよいベランダで布団を干し、清潔に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の身体機能やADLの事を把握して安心安全に自立に向けて生活が出来る様に職員で話し合い支援している		

事業所名	グループホーム さいわいの樹
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域の連携を取りながら他施設との交流を踏まえて事業所としての生き生きとした家庭的な暮らしを目指し職員全員がその理念を共有実践に務めつなげていく		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事ごとに参加したり散歩等を通し近隣の方々と自然に挨拶が出来、交流が出来る様、職員、利用者が日常的に交流を心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、地区民生委員、地域包括、地域の施設との交流 ご家族様への活動報告を行っている。認知症の人の理解や支援も理解して頂ける様にかかしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年3回ペースで開催、役所、民生委員、ご家族を交えて意見交換を行い、サービスの向上に活かしているが、コロナ禍の蔓延防止対応の為今年度は行えない状況です。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議は延期の状況ですが、市町村担当との連携に常に心掛けし、積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束の手引き」身体拘束の行為を職員が理解認識している。玄関の鍵等は安全上施錠しているが外出する際には一緒に同行している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員の理解と知識の共有を図り虐待防止に努めている。新しい職員にも周知徹底する事に努める		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	利用者の中には、後見人の方が何人かいるので、職員全員に周知しなくてはいけない。その都度活用できる様に個々に活かし合い支援援助している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際には、事前に契約内容等を説明し、ご家族、ご利用者様に納得して頂いた上で入居して頂ける様心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を通して意見交換を行っているが、今はコロナかなので出来ていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期に会議を行い各自の意見を述べて対策改善に努めている。出来ない時は申し送りノートを利用して職員が把握できるようにしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	休憩時間等も個々に状況を把握し声かけ合い休憩をとっている。働きやすい職場環境整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質を把握しその人に合った力量に合わせたケアを支援して行く。一年に一回職員全員に人事考課を行い向上心を持ってもらえる様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣の施設と交流、研修等 ネットワークを持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居して間もない時は施設に慣れるまで不安なので、細かく観察してご本人に合った対応に心掛け良い関係作りに努め支援して行く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前見学時に生活状態、既往歴等細かく聞き取り、要望を明確にした上でこちらでの生活が不安なく過ごして頂ける様支援して行く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族の思いを聴き確認して本人にとってより良い方法を一緒に考え援助し職員全員が把握して同じサービスが出来る様に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人と職員と一緒に出来る事、職員が見守りながら出来る事を活かし生活の楽しみを増やし共に寄り添い出来る関係を築ける様支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月ご家族に報告書を送り生活の様子、健康状態、日常の事等を伝えて家族の方との絆を大切にご本人も安心して頂ける様支援して行く。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、知人、友人が何時でも面会に来られる様に環境を作る支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の性格やレベル等把握し一人一人が孤立せず、皆で楽しく過ごせる関係性を作る努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了となってもご家族様からの連絡があれば必要に応じて対応し支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の今までの生活していた思い等なるべく維持し、今後の希望等を聴き職員と、ご本人に添いながら検討していける様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご家族から情報を聞き取ったり、ご本人の話の中で日々の生活出来るサービスを把握し安心して暮らせる様支援に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとり身体の状態を把握し出来る事、出来ない事、ADL低下させない様支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意見を聴き、その都度反映している。体調やADL等に応じ職員と話し合い計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の暮らしの様子、個人記録等健康チェック等を見て日々体調管理を職員間で共有し介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	地域包括支援センターや他施設内の交流支援状況を図りながら日々の生活を円滑に支援できるサービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域で慣れ親しんだ所で穏やかに過ごせる支援、町内会ボランティアの方にも協力して頂き安心安全に過ごせる支援をしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人ご家族の希望を聞き受診通院をかかりつけ医師に連携を取りながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の生活の中でのケアで変化に気付いた時に看護師、医師に伝え指示を適切な受診や看護が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は医療機関に利用者の情報提供を速やかに伝え、また退院時には前もって医療機関側から状態情報を伝えて頂き施設に戻ってからも無理なく行える関係づくりを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期について家族の方医療機関の方を交えて早めに話し合いを行い説明をし十分理解を得る様に支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や危険な時に備えて職員全員で対応出来る様にマニュアル作りをし、電話の近くに手順書を貼って常に身に着ける様にしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防災訓練を行っている。安全確保に努めている。地域住民の協力、町内会を通して協力体制、他施設の方とも連携を築けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報了他に漏らさない、意思を尊重し無理の無い支援をする。コミュニケーションを図りながら信頼関係を築ける様支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の日常生活の中で安心して生活が送れる様に本人の希望など自ら決定出来る様な環境作りを心掛けて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人個人の意見を尊重し一人一人のペースに合った生活が送れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の希望により自分らしい整容が出来る様に支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	配食によるメニュー、季節感のあるメニュー、カロリー他、近隣の方からの頂いた野菜果物などを活かし利用者と職員が準備等しながら楽しめる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	宅配食材による カロリー、栄養管理された献立、栄養バランス、水分量など利用者様のその日の健康状態に応じて食事が出来る支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアしその他に週1回のペースで歯科往診にて口腔内の清潔保持が出来ている。口腔内の汚れが誤嚥性にもつながるのでケアを強化している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者一人一人の排泄パターンを把握し声掛けし排泄誘導し習慣を持って頂ける支援して行く。個人別の排泄チェック表をスタッフが共有し健康チェックも支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者様の個々の排便状況のチェック表を元に把握し便秘にならない様に運動、水分量提供や主治医、ご家族の方々とも相談しながら改善出来る様に支援を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者様の体調やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂く。季節毎に『ゆず湯』『菖蒲湯』など楽しんで頂ける様支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動の中で無理の無いようにレクリエーションや散歩などを支援したり個人の意見を受け体調等に応じ休息をしたり、安心して眠れるように支援を行っている。今はコロナ禍なので散歩は様子観ながら行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が利用者様の服用を把握出来る様にケースに整理し体調や症状の変化にも気を付けて確認しながら提供するように心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の日々の暮らしで出来る事を活かし生活に張りのある支援を心掛け楽しみも増えるように気分転換などにも支援をしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望に添った外出支援 外出できない場合は玄関前の外やベランダで外の風を感じて頂ける様支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は基本的には事務所で預かりし管理している。ご本人の希望にてお金を持ってスタッフと供に買い物等し使える様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの電話や手紙等出来るような環境を作って支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が一番長く居る場所を居心地良く安心して居られる様に工夫している。フロアでの時間を大切に過ごせる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご本人のお部屋は勿論の事ですが、フロアも皆様と一緒に過ごせる様な居場所を作る工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居にあたってなるべくご本人が暮らしていたままの状況、慣れ親しんだ物を持参し本人が安心して暮らして行ける様に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の身体機能やADLの事を把握して安心安全に自立に向けて生活が出来る様に職員で話し合い支援している		

2023年度

事業所名 グループホームさいわいの樹
R6年5月8日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		職員研修が出来ていない	職員の向上につながる研修	スキルを上げる研修を目標にする	6ヶ月
2		ADLを維持できる活動が少し欠けていた	体力・気力維持できる支援を目標に	体操、出来る事を見つけて支援する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月